

研究課題 (テーマ)	ダウン症候群児を出産後の母親に対する保健師の効果的な心理面への支援の検討		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学部看護学科・講師	講師	朝倉理映
分担者			
研究結果の概要			
<p>背景：ダウン症候群は、出産後間もない段階で心の準備もできていない状態で診断され、障害の受容もままならないうちから育児を開始することが多い。また、発育・発達の遅れや合併症を認めることが多いが、種類や程度は様々であり、母親や家族の状況に応じた必要な支援を提供できる支援体制を整えることが難しいとされている。</p> <p>母親はダウン症候群児が出生後、わが子がダウン症候群であることによる苦悩や否認の感情が生じ、わが子を育てることへの不確かさや家族関係の調和への困難感を抱くが、家族や他のダウン症候群児の母親、専門家（医療従事者など）のサポートが得られることにより、母親の安心観・信頼感が生じ、わが子の育児・将来への見通しができるようになると言われている。</p> <p>保健師は妊娠期から母親を支援しており、ダウン症候群児を出産後の母親が否定的感情を生じた際に心理面への支援を担うこともある。</p> <p>目的：ダウン症候群児を出産後の母親の心理面への支援において、保健師が実際に行った支援やどのような支援が望まれるかを明らかにし、ダウン症候群児を出産した母親への効果的な支援方法を検討することである。</p> <p>本研究の意義は、保健師が行う効果的な心理面への支援を検討することで、ダウン症候群児を出産した母親への支援の質保証及び向上につながる。ひいては、母親が出産後早期にダウン症候群児への育児における安心感や前向きな姿勢を獲得することが期待できる。</p> <p>方法：A 県在住のダウン症候群児出生後に保健師の支援を受けた母親 9 名を対象に面接調査を実施し、対象者の属性を確認後、ダウン症候群児出生後に保健師から受けた支援について（出産時から現在まで）やダウン症候群児を出産後に保健師の支援に関して望むこと等についてインタビューを実施した。研究対象者の語りの中から保健師の効果的な心理面への支援に関する内容を抽出し、質的帰納的研究方法で分析を行った。データ収集期間は 2025 年 9 月～11 月であった。</p> <p>結果：現在、研究対象者ごとにコード化、2 次コード作成をしており、今後さらにすべての対象者の調査結果を検討し、保健師の支援について焦点を当てて分析を進めていく。</p>			
今後の展開			
<p>研究分析を進め、令和 8 年度中に論文投稿及び学会発表を実施する予定である。</p> <p>また本研究を予備調査として、さらなる研究を遂行していく。</p>			